

地震から身を守るためには

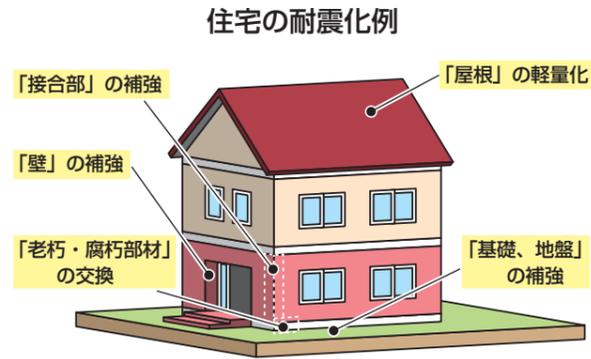
地震から身を守るためには、「住宅の耐震診断」や、「家具の固定・配置」等日頃からの対策が必要です。

家の耐震性を確認し、耐震化をしましょう

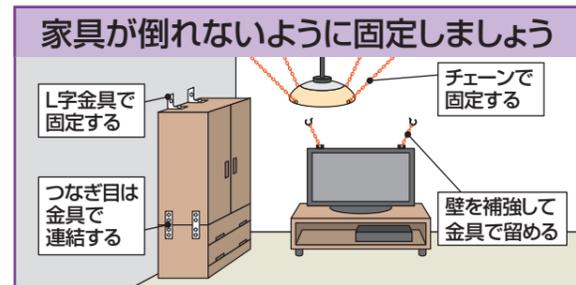
町は住宅の耐震化促進に努め、「木造住宅耐震改修等事業」を実施しています。わが家の「耐震性」を点検し、「耐震補強」をして、より安心・安全な地震対策を行きましょう。

対象となる住宅

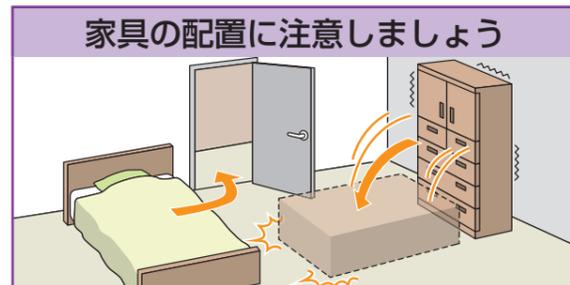
昭和 56 年 5 月 31 日以前に着工され、完成している木造住宅



家具の転倒防止・家具の配置に注意しましょう



家具やテレビ等を固定し、転倒や落下を防止する。

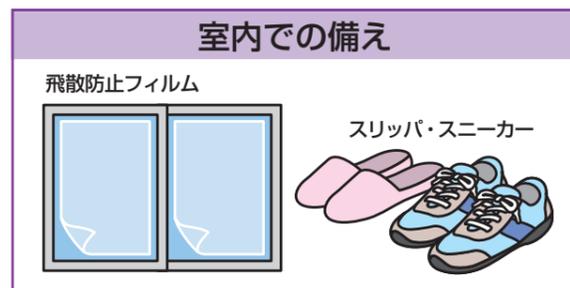


寝室には倒れそうな家具を置かない。扉をふさぐような配置をしない。

二次災害にも備えましょう



消火器や火災警報器の設置及び点検。感震ブレーカーの設置。火災警報器の電池交換は10年を目安。



窓ガラスや食器類の破片対策として、飛散防止フィルム、スリッパ等の準備。

風水害から身を守るためには

家財

- 貴重品や思い出のものが、すぐに持ち出せるようになっているか
- 濡れて困るものは、あらかじめ高い場所へ移動しているか

屋根

- アンテナは不安定ではないか
- トタンがめくれていないか
- 瓦のひび・割れ・はがれがないか

ベランダ

- 植木鉢や物干し竿等、落下や飛散の危険のあるものはないか

窓

- 窓枠のがたつきはないか
- 雨戸のがたつきはないか

雨どい

- 雨どいに落ち葉等が詰まっていないか
- 継ぎ目はずれや塗装のはがれ、腐りはしないか

外壁

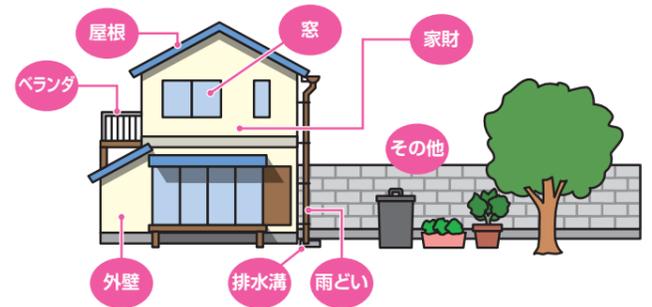
- 壁に亀裂がないか

排水溝

- 排水溝にごみや土砂が詰まっていないか

その他

- 商店等では看板のぐらつきがないか
- ゴミ箱や植木鉢等は室内に入れるか、飛ばないように固定しているか
- 庭木には添え木をしているか
- ブロック塀が崩れそうになっていないか
- プロパンガスのボンベが鎖でしっかり固定されているか



雨水を貯めたり地面に浸透させること等により、短時間で多くの水が川に流れ出るのを防ぎ、洪水被害を軽減できます。

庭の土や植物も役に立っている

庭に土や植物があると、降った雨水が一度に流れず、自然に地面にしみ込んでいきます。



雨水をためて庭の水まきに

雨どいから流れ落ちる水をバケツにためておくと、晴れてから庭の水まきや花への水やり等に利用できます。



庭にある池も役割があります

庭にある池も、雨水をいったんためる役割を持っています。



大雨の時は、お風呂の水を流すのをちょっと待って

特に大雨の時は、お風呂の水を流すのをちょっと待って、ためておくのも工夫のひとつです。



身近なものでできる土のう・水のうの作り方

洪水には土のうや水のうが有効です。まだ水深が浅い初期の段階なら、家庭にあるゴミ袋、レジャーシート、プランター等を利用した応急処置で対処が可能です。

土のう作り



土を入れたプランターを横に並べ、レジャーシートを巻いて補強します。プランターの代わりに水を入れた防災タンク（ポリタンク）等も利用できます。

水のう作り



ゴミ袋(40L程度)を二重にして、その中に半分程度の水(風呂の残り湯を使うと便利)を入れ、玄関等にすき間なく並べます。段ボールに入れて連結すれば、強度が増し、積み重ねることもできます。

地域で助け合いましょう

いざという時は助け合いましょう

高齢者、子ども、障がい者、外国人等は、災害時に避難の行動が遅れがちになります。災害時に手助けが必要な人（避難行動要支援者）を災害から守るために、地域で協力しあいながら支援していきましょう。

肢体が不自由な人

支援者の人は

- 階段では、2人以上が必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。



耳が不自由な人

支援者の人は

- 口をはっきりと開け、相手にわかりやすいように話す。
- 手話、筆談、身振り等の方法で正確な情報を伝える。



目が不自由な人

支援者の人は

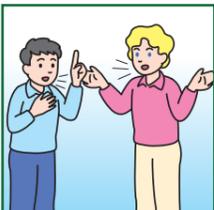
- 声を掛け情報を伝える。
- 誘導する場合は、支援者のひじのあたりを軽く持ってもらい、半歩前をゆっくり歩く。



外国人

支援者の人は

- 身振りや手振りで話し掛け、孤立しないようにする。



自主防災組織へ参加しましょう

大規模な災害時は、警察、消防や行政機関だけでは十分な救援活動ができない場合があります。このような場合に力を発揮するのが地域ぐるみの防災活動である「自主防災組織」です。近隣住民の皆さんがお互いに助け合って、負傷者の救出、避難誘導等を行い、被害を軽減させることがもっとも重要な防災対策となります。いざという時に備えて、日頃から「自分たちの地域は自分たちで守ろう」という意識のもと、自治会活動の一環として自主防災組織に参加し、災害に備えた取組みを地域で行いましょう。

阪神・淡路大震災では、**約95%**が自力による脱出や家族・友人・隣人による救助です。

自主防災組織の活動例

平常時

- 防災知識や技術の普及活動
- 要配慮者への支援体制
- 防災訓練の実施
- 防災資機材の備蓄
- 危険な場所の把握



災害時

- 災害情報や被害情報の収集、伝達の協力
- 負傷者の救出
- 避難誘導
- 避難所の開設と運営への協力
- 炊き出し、配送、配給、給水等の実施

家族や地域で防災に取り組みましょう

日頃から家族で防災について話し合い、災害に備えておきましょう

非常持出品（無理なく持って歩ける量を準備しましょう）

- 通帳・印鑑
- 現金（公衆電話用硬貨等）
- 衣類・タオル
- 免許証・健康保険証等のコピー
- 救急医薬品常備薬
- 非常用食料
- 携帯電話充電器
- 水（500ml×6本程度）
- ラジオ・懐中電灯

- 小さなお子さんがあるご家庭では**
避難所では乳幼児向けの物資が手に入りにくい場合もあるため、以下の物等も準備しておきましょう。
- オムツ等衛生用品
 - 離乳食おやつ
 - 抱っこひもおんぶひも
 - 粉ミルク哺乳瓶
 - おもちゃ絵本等

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

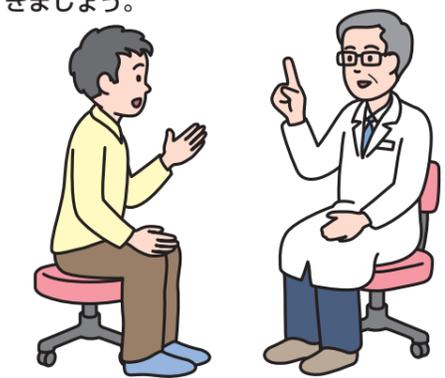
非常備蓄品（家族が最低3日間は過ごせるように備蓄しましょう）

普段から食料品やトイレトペーパー、ラップ等を少し多めに購入し、古い順に使っていくと自然と備蓄することになります。

- 飲料水（1日3ℓ/人 目安は1週間分）
- 缶詰類
- アルファ化米
- インスタントラーメン
- 卓上コンロガスボンベ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

在宅医療（在宅酸素療法、在宅人工透析療法等）をされている人は
透析や酸素等専門医と話し合い、対策しておきましょう。



その他必要なものを家族で検討し、上の欄に書き出しておきましょう。

お風呂に水を貯めておきましょう

いざという時に、洗濯、掃除、トイレ、散水等の生活用水として利用することができます。

